

第1回指宿枕崎線(指宿・枕崎間)の将来のあり方に関する検討会議

議事概要

日時：令和6年8月19日(月) 13:00-15:10

場所 鹿児島県社会福祉センター 7階第2会議室

指宿枕崎線指宿駅から枕崎駅までの区間における将来のあり方を検討する「指宿枕崎線(指宿・枕崎間)の将来のあり方に関する検討会議」について、第1回検討会議を開催したところであり、その議事概要は以下のとおり。

1. 開会

2. 冒頭挨拶 【鹿児島県総合政策部交通政策課長】

3. 報告・確認事項

(1) 指宿枕崎線(指宿・枕崎間)の将来のあり方に関する検討会議の設置について

(2) 指宿枕崎線(指宿・枕崎間)の将来のあり方に関する検討会議の規約等について

・事務局から上記2項目の説明を行い、構成員により確認。

4. 議事

○ 第1号 指宿枕崎線の現状について

九州旅客鉄道株式会社 堀江担当部長から説明。

- ・平均通過人員は、九州旅客鉄道が発足した1987年度から2023年度の推移を見ると利用者が右肩下がりに減少し、1987年度と2023年度を比較すると、約76%減少している。
- ・沿線3市の人口推移との比較では、人口減少以上に鉄道の利用者が減少しており、列車本数が概ね変わっていないことを踏まえれば、マイカー利用の増加や観光需要としての鉄道利用が他の移動手段に移行したことなどが想定される。
- ・通学定期利用者と高校生徒数の推移には強い相関関係があり、駅別の乗車人員に注目すると、学校付近の駅には一定の乗車人数があり、通学手段としての需要があるのがわかる。
- ・指宿枕崎線の指宿・枕崎間の2023年度の線区収支は、約4.6億円の赤字であり、厳しい状況が続いている。

○ 第2号 沿線人口等の将来像について

呉工業高等専門学校 神田教授から説明。

- ・沿線3市の現在の人口と将来推計を見ると、鉄道の存続以前に小学校の存続すら危うくなるのが分かり、地域の足として鉄道はさらに厳しい状況になっていく。
- ・バス等へのモード転換でもこの状況に変化はなく、人口減少に伴い病院や銀行、観光需要の減少や、労働力不足など、単なる公共交通の問題に留まらない。
- ・利用者数は「移動生成量（移動回数）」、「集中量（行き先の魅力度）」などが影響する。移動生成量については、鉄道活用により沿線住民の移動回数を増やすことや、観光等の来訪を増やすこと。集中量については、駅周辺に人が集まる施設を集めることができないかなどが検討できるのではないかと。
- ・鉄道の価値は、移動の足としての効果だけで評価するのではなく、鉄道があることでその地域を訪問し、消費し、地域経済に貢献するという「波及効果」や、鉄道等の存在により、まちおこしや地域活性化ビジネスなどの熱が高まるという「触媒効果」などの観点から評価することも大事。
- ・鉄道の存続の議論では、上下分離など事業構造の変更が議論の争点になることが多いが、鉄道という資産を活用して地域の経済を活性化することを追求し、結果として地域の足を確保するといった観点からの議論が必要ではないかと。
- ・地域の価値を発掘していくような、前向きな地域づくりを行っていくのが良いのではないかと考えている。

○ 第3号 沿線地域の取組状況について

事務局から説明。

- ・指宿枕崎線の各種計画の位置づけ、これまでの取組状況、地域で活躍している方々の紹介

○ 議題第1号から3号の説明後の構成員における意見交換

(指宿市)

- ・指宿枕崎線は指宿市の背骨のような重要な資産。
- ・日常使いを今後どうしていくべきかと考えていたが、指宿枕崎線には日本最南端のJR有人駅である山川駅、日本最南端のJR無人駅である西大山駅がある。地域を訪問して地域でお金を消費する神田教授の御指摘

と一致しており、ポテンシャルがあると改めて感じた。

- ・一方で、西大山駅は車で訪問されることが大半であり、また開聞岳の登山など、鉄道利用と観光事業の連携が今後重要になってくる。
- ・指宿駅の周辺では地域の方による駅前での朝市の開催や、商店街の老朽化したアーケードの撤去など、駅の活性化に繋がるような活動を自発的に行っている。

(南九州市)

- ・人口減少が問題になる中、このような公共交通の議論は避けて通れず、持続可能な維持ができればと考えている。
- ・利用促進の取組としては、シェアサイクルの設置や、地域おこし協力隊の方々による西瀬戸駅の運営等、さらなる改善を検討している。

(枕崎市)

- ・指宿枕崎線は高校生の関心も強く、市議会と高校生との意見交換会でも存続を求める声があった。
- ・沿線には、県内唯一の水産高校があり、鹿児島市内から指宿枕崎線で通学している生徒もおり、通学に必要な路線であると考えている。
- ・枕崎駅に置いてあるノートを見ると、全国各地から JR 最南端の始発・終着駅を訪問している方がいることがわかる。

(神田教授)

- ・自治体のみではなく、地域の民間企業やNPO法人、地域おこし協力隊など、自発的に主体となって、鉄道の利用促進に取り組んでいる方々がとても多いことがこの地域の魅力だと思う。更に、沿線にもオンリーワンの要素が多くあり、とても可能性のある地域。この資産をどう活かしていくかが重要なポイント。
- ・取り組む人たちと地域の思いをうまくつなげて回していく体制づくりの議論もいずれは必要となってくると思う。

(鹿児島県)

- ・いかに稼いで、住んでいく地域にするかということが大事だと思っている。地域全体として指宿枕崎線という資産を使って、どう地域づくりをしていくのか、稼いでいくのか、鉄道を使っていくのかという機運を高めていくことが重要。

- ・この会議体はスモールスタートということで、行政、交通事業者、有識者という構成ではあるが、現在、既に地域で利用促進に動いている方々との連携をどうしていくか、民間の方が地域で生業をするのにどう稼いでいくのかということに結びつくことこそが地域づくりにつながると思う。そういった商工系の方々との関わりということも考えていきたい。

(九州旅客鉄道株式会社)

- ・これまでの地域の取組には感謝している。
- ・一方で、将来の人口推計等を鑑みると鉄道の利用者がV字回復することは正直難しい状況。
- ・昨年、議論の場を設けていただきたいと言ったのは、このまま何も手を打たずにいると、将来、地域の足を確保する選択肢がなくなってしまうことを恐れたため。まだ今であれば、打てる手があると思う。
- ・何故、この地域なのかということについては、行政だけでなく、地域の方々もこの地域を何とかしていきたいとの思いが強い地域だと感じており、この地域であれば、後向きではなく、前向きな話ができるのではないかと考えたため。
- ・思いの大きなベクトルは皆さんと同じ。これを地域の中で大きな流れとして、いい方向に進んでいけたらと思う。

(鹿児島県)

- ・JR九州においては、指宿枕崎線を現在も運行し、維持管理していただいていることに感謝する。
- ・他方、地域側のスタンスとしてはJR九州において引き続き、運行を維持・継続していただきたい。そのためにも地域においても、鉄道を活かした地域づくりをこれから検討していきたいと考えている。

(九州旅客鉄道株式会社)

- ・地域として、鉄道が必要だと思っていただいていることに感謝する。
- ・今後の人口減少や少子化を踏まえれば、現状維持のままでは利用状況はさらに厳しくなることが見込まれ、将来にわたり地域が鉄道を活かしていくには地域の鉄道運営への積極的な関与が重要だと考えている。

(鹿児島県)

- ・今はまだ入口論の段階であり、まずは鉄道の可能性の追求に最大限注力していきたい。

(神田教授)

- ・上下分離やバスへの転換など、最終的な出口の議論は、地域で何を行うかによって変わっていくものであり、他の選択肢も出てくる可能性がある。
- ・地元で稼ぎ、若い人が地元に残って頑張っているような状態を作り、鉄道を利用した新しいビジネスモデルなど、様々なアイデアを出し合い、まずは実施し、その知見や経験を重ねた上で、最終的にどのような形で実現していくかということを考えていけば良いのではないかと。

(九州旅客鉄道株式会社)

- ・事業者目線として、今回議論をさせていただきたいと申し上げた背景の一つに、経営的事情もある。現状のまま未来永劫運営を継続することは難しく、地域として鉄道を選択する場合は事業構造を含めた議論をさせていただきたいが、建設的な議論をするということで、まずは鉄道の可能性を追求するという形に異論は無い。
事業者としても一緒にやっていきたい。

(鹿児島県)

- ・鉄道だからこそできる地域づくりがあると思う。今後の鉄道に対する価値の評価について、アドバイスを頂きたい。

(神田教授)

- ・鉄道として将来的に残すのであれば、何らかの形で費用負担は生じるのは避けられない。沿線3市で1億円の財政負担が生じたと仮定すると、これまでの考えでは「インフラ維持のための経費」という認識になるが、「1億を投資することで価値をどれだけ生みだせるか」という判断軸を持った方がいいと思っている。
- ・利用者数の増加という視点で鉄道が判断されることが多いが、地域で経済をいくら循環させることができたのか、稼ぐことができたのかという大きな目線で見ても良いのではないかと。
- ・例えば、利用促進のイベントにおいても来場者数や鉄道利用者数に注目されるが、イベントでいくら稼ぐことができたのかといった経済的な視点を持つなど、「地域の活性化」というのを見据えるのであれば、経済的な観点は意識するのが良いと思う。

(鹿児島県)

- ・九州運輸局よりオブザーバーとして意見をお願いしたい。

(九州運輸局)

- ・ 鉄道の可能性の追求に注力するという一方で、これから取組、方策等を検討していくこととなると思うが、その際、取組等には短期的なものの中長期的なものがあり、時間軸に注意して進める必要がある。
- ・ 中長期的な取組については、地域づくりとして生活サービス・社会機能を駅周辺に集中させることが考えられるが、例えば、統廃合した学校を鉄道沿線に設置し、その近辺に新駅を設置したような例もある。
- ・ 中長期的な取組として社会・地域づくりを行う上では、教育など交通に限らない他の部局の意見を反映した上で進めることができれば良いと考える。

(指宿市)

- ・ 今後は鉄道の価値を高めて、それを見極めていくという流れになると思う。収支の観点からではなく、鉄道はノスタルジーの観点からも残してほしいという意見もある。

(九州旅客鉄道株式会社)

- ・ 鉄道の価値を大事に思っているのは、事業者として大変ありがたい。
- ・ 会社としては地域の想いに応えていくことと同時に、事業として成り立たせることも大切な使命であり、現実的なところも見極めつつ、地域とどう共生していくのか、地域の皆さまと一緒に考えていきたいと思う。

(南九州市)

- ・ 次回以降の検討会議では、どのような内容を議論していくのか。

(鹿児島県)

- ・ 地域で既に動いている取組がそれぞれあるのがこの路線の強み。まずは既存の取組を評価・さらに深化できるように伴走しつつ、地域にどれくらいの経済的な影響があるのかを外部コンサルタントへの調査委託も視野に入れながら、検討していくのが必要なのではないかと考える。
- ・ 価値の評価を行いながら、他県において利用促進に取り組んでいる方の話を聞きに行くなど、見聞を広げることや、「稼ぐ」という観点から、商工系の方々とのワークショップや意見交換等も考えられるのではないかと考える。

(鹿児島県)

- ・本日の議論では、指宿枕崎線の将来を考えるにあたっては、事業構造の変更等の出口論ではなく、まずは鉄道の可能性の追求に最大限注力するという点で、関係者間でスタートラインに立った。
- ・「指宿枕崎線を活用して、住みたくなる地域をつくる」という目標に向け、関係者一丸となって今後取り組んでいく。
- ・現在行われている路線活用の取り組みを更に深化・価値の評価を行い、次回以降、現状の取組の（価値）評価や地域の商工系の方々との関わりについて議論したいと考えるが如何か。

全ての構成員の賛同

以上